

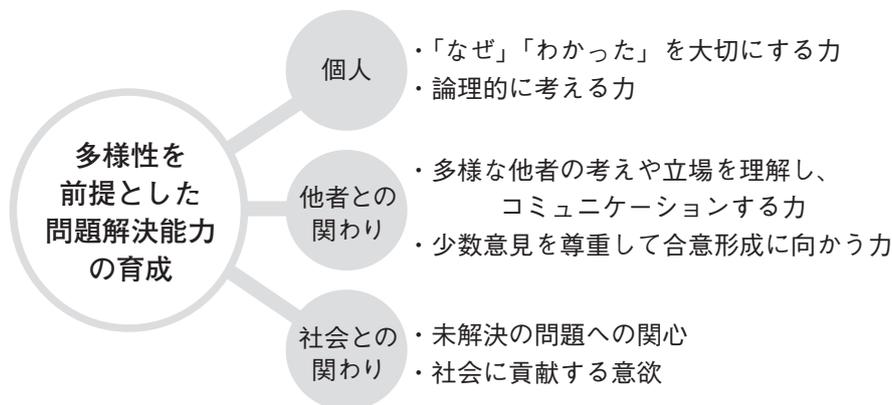
編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30 - 155	小学校	国語	国語	6
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	国語 603	みんなと学ぶ	小学校 国語	六年 上
	国語 604	みんなと学ぶ	小学校 国語	六年 下

I 編修の基本方針

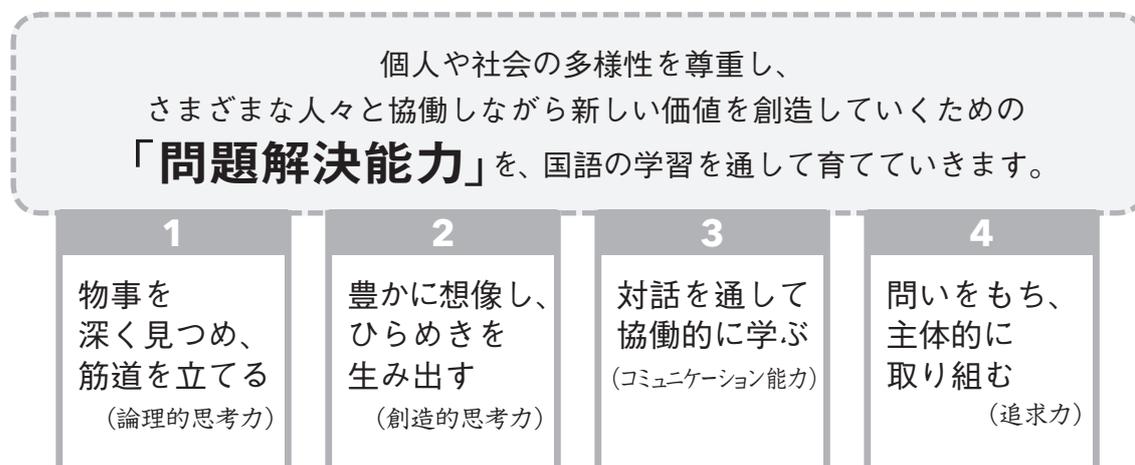
私たちは、共通の編修理念に基づき、育てたい資質・能力を以下のようにとらえました。



教育基本法第2条に示された教育の目標を達成するため、この教科書では上記の理念を取り入れ、次のような基本方針を掲げました。

「言葉と深く関わり、新しい世界を切りひらく」

言葉と深く関わり、没頭しながら、目の前の課題を踏み越えることができた時、子どもたちはこれからの社会を生きるための「確かな言葉の力」を身につけることができます。言葉の力を獲得し、自信と希望をもって新しい課題に挑戦する子どもたち。そのような姿を思い描き、教科書を編修しました。

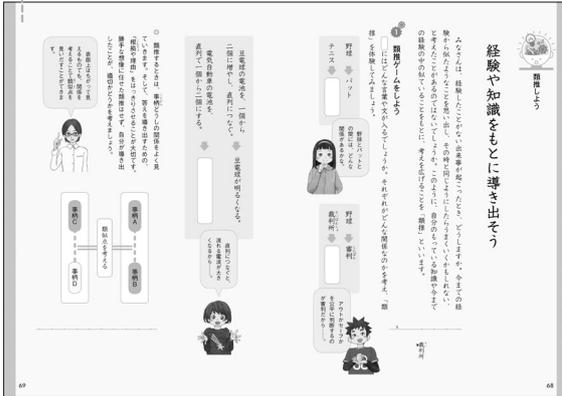


この教科書では、問題解決能力を育成すべく、その支えとなる力を4つに分けて整理しました。

1 物事を深く見詰め、筋道を立てる

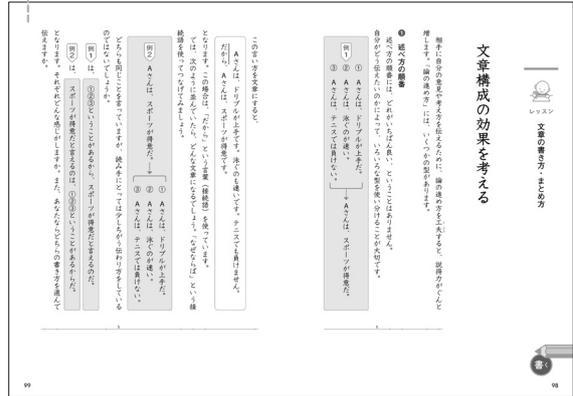
対象を言葉で理解・表現し、物事を論理的に解釈する力を育成することで、幅広い知識と教養を身に付けられるようにしています。また、思考操作の方法をメタ認知することにより考えの深化を促し、真理を求める態度や自主及び自律の精神を養います。

身の回りの事象を既存の知識や経験をもとに類推して考えます。事柄どうしの関係から、考えを導き出すための根拠や理由をはっきりさせ、物事を分析的にとらえます。



「経験や知識をもとに導き出そう」(上巻 P68・69)

自分の考えを伝えるための効果的な書き表し方を考えます。「帰納・演繹」といった述べ方の順序などの表現の工夫を知り、伝えたいことを筋道立てて書くことのよさに気づきます。

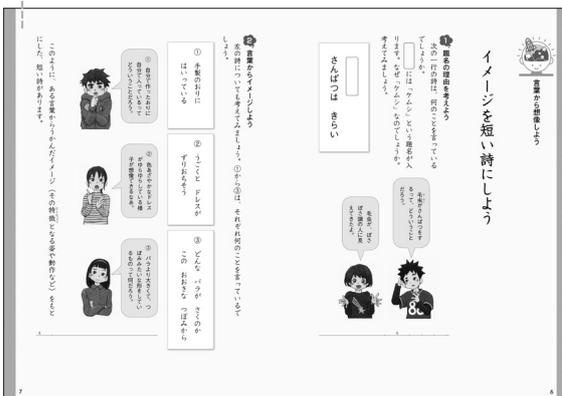


「文章構成の効果を考える」(上巻 P98・99)

2 豊かに想像し、ひらめきを生み出す

豊かに想像したり、思考を再構成して捉え直したりすることでその能力を伸ばし、情操を豊かにするとともに、既存の認識にとらわれない新しい価値を生み出すための創造性を培います。

ある言葉から想像を広げ、別の物事に置き換えるなどして短い詩を作る活動を行います。一見結びつかないものをつなげる思考活動により、新しい知を生み出すための創造力を育てます。



「イメージを短い詩にしよう」(下巻 P6・7)

言葉からイメージを広げたり友達の違いを受け取ったりしながら、クラスみんなで詩をつなげ、連詩を作ります。友達が作った詩の言葉や、受け取ったイメージをもとに詩を作る活動を通して、新たな発想を生み出します。



「心と言葉でつながろう」(下巻 P42・43)

3 対話を通して協働的に学ぶ

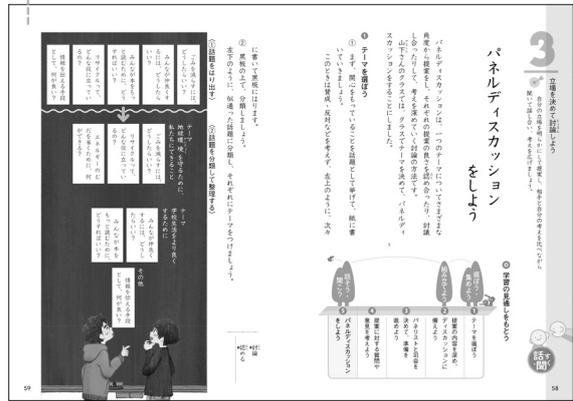
考えや立場の多様性を理解し、言葉を介して協働するための学習基盤を作っていくことで、個人の価値を尊重し、主体的に社会の形成に参加する態度を養います。また、活動目的を明確にし、互恵的な集団思考の有用性を図ることで、自他の敬愛と協力を重んずる態度や、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養います。

なやみを解決するためのアドバイスをみんなで考え、相手の立場になって話したり共感的に聞いたりする活動を通して、学習集団にとって大切な親和的な雰囲気を築きます。



「プラス思考でアドバイス」(上巻 P14・15)

主体的に話し合い活動に関わり、提案の良さを認め合ったり、考えを深めたりしていきます。課題解決のための提案を共有し、考えを深めていくための「話を展開する力」を身に付けます。

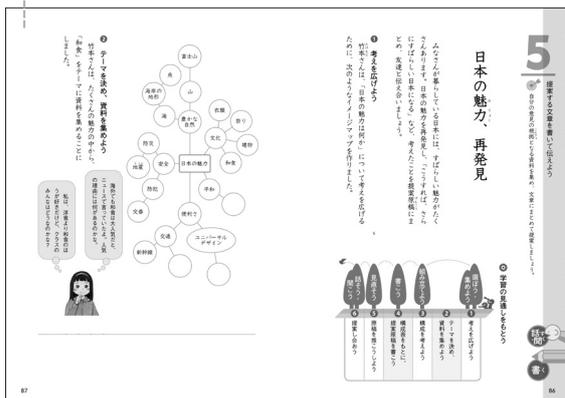


「パネルディスカッションをしよう」(上巻 P58・59)

4 問いをもち、主体的に取り組む

自ら課題を発見し、それを解決していくためのプロセスを構築する力を育てていくことで自主及び自律の精神を養います。また、積極的に課題に関わり、考え、判断し追求していくことで、主体的に社会の形成に参画する態度を養います。

日本の魅力を見つけ、さらにすばらしい日本にするための提案を行います。伝えたいことの根拠となる資料を自身で選んで提案する活動を通して、主体的な態度を育てます。



「日本の魅力、再発見」(下巻 P86・87)

表現方法や語り方などの観点をもとに、自発的に感想を伝え合うことで、自身の読みを深めるとともに、言語生活を豊かにしていこうとする態度を育てます。



「きつねの窓」(上巻 P120・121)

II 対照表

【上巻】

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭 出発	詩を声に出して読むことで、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました（第1号）。	表紙2～P1
本編 前後のつながりを示す言葉 漢字の成り立ち 文末の表現 言葉づかいのちがひ 漢字の広場1・2 言葉をつないで文を作ろう①・②・③	文の構成や漢字の成り立ち、言葉の特徴や使い方について学習することで、幅広い知識と教養を身に付けるようにしました（第1号）。 言葉や文に着目し、読んだり書いたりすることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばすとともに、自主及び自律の精神を養えるようにしました（第2号）。	P30～33 P36～38 P102～103 P124～126 P57・122 P39・74 ・123
経験や知識をもとに導き出そう	身の回りの事象を既知の知識や経験をもとに類推して考える活動を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1号）。	P68～71
季節のたより：春・夏 絵を見て語り合おう／フリードルとテレジンの小さな画家たち	言葉から季節を感じることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにしました（第5号）。 戦争と人権をテーマにした文章や絵を読み、友達と共有しながら自立的に読書活動を進めることで、自主及び自律の精神を養うとともに、生命を尊ぶ態度を養えるようにしました（第2・4号）。	P34～35・ P66～67 P75～91
プラス思考でアドバイス 話し合ってみよう パネルディスカッションをしよう	なやみを解決するためのアドバイスをみんなで考えたり、合意形成のために話し合ったり、立場を決めて討論したりする活動を通して、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました（第3号）。	P14～15 P40～41 P58～65
文章構成の効果を考える	自分の考えを伝えるための効果的な書き方を学ぶ活動を通して、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1号）。	P98～101
電子メールで質問しよう	電子メールの書き方やルールを知り、知りたいことをメールで質問する活動を通して、個人の価値を尊重し、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました（第2・3号）。	P72～73
さまざまな表現の工夫	詩の技法を学び、詩作や作文の表現に生かしていくことで、その能力を伸ばし、創造性を培うとともに、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました（第1・2号）。	P54～56
誓約書 きつねの窓 名づけられた葉 ／きのうより一回だけ多く	物語や詩を読み、人の心などの美しいものや気高いものに触れ、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました（第1号）。	P16～29 P104～121 P94～97
AIで言葉と向き合う／AI（人工知能）と私たちの未来	人工知能とオノマトペを題材とした説明文を読み、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や創造性を養えるようにしました（第1・2号）。	P42～53
巻末 目的に応じて調べよう 川とノリオ 言葉の部屋	目的に応じた調べ方や資料の活用の仕方を学んだり、思考を促す語彙を確かめたりすることで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度や主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました（第1・3号）。 戦争や平和をテーマにした物語を読むことで、生命を尊び、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました（第4・5号）。	P132～133 P136～147 P164

【下巻】

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
巻頭 土	詩を声に出して読むことで、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました（第1号）。	表紙2～P1
本編 熟語の構成 意味をそえる言葉 言葉は変わる 漢字の広場1・2 言葉をつないで文を作ろう①・②・③ イメージを短い詩にしよう	漢字の構成、言葉の特徴や使い方、時代による言葉の変化について学習することで、幅広い知識と教養を身に付けられるようにしました（第1号）。 ある言葉から想像を広げて短い詩を作る活動を通して、言語感覚を豊かにし創造性を培えるようにしました（第2号）。 言葉や文に着目し、読んだり書いたりすることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばすとともに、自主及び自律の精神を養えるようにしました（第2号）。	P56～57 P84～85 P94～95 P36・63 P37・55 ・110 P6～8
狂言 盆山／漢詩 季節のたより：秋・冬 本は心の道しるべ	伝統芸能である狂言を演じてみたり、漢詩を読んだり、日本人が大切にしてきた季節を感じる言葉に触れたりすることで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにしました（第5号）。 読書の意義を学び多読へ向かうことで、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました（第1号）。	P26～35 P24～25・ P68～69 P64～65
すいせんします、この委員会活動	委員会活動の良さを伝えるために、みんなの前でスピーチする活動を通して、自律の精神を養い、正義と責任、自他の敬愛を重んずる態度を養えるようにしました（第2・3号）。	P58～62

	日本の魅力、再発見	日本の魅力を見つけて提案する活動を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました（第3号）。	P86～93
	自分を見つめてみよう	見方や考え方を働かせ、今考えていることや感じていることを、自由な形式で書く活動を通して、創造性を培い、自主及び自律の精神を養えるようにしました（第2号）。	P70～73
	「連詩」を発見する ／心と言葉でつながろう	友達とともに連詩を作る活動を通して、言葉からイメージを広げたり友達の思いを受け取ったりすることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培えるようにしました（第2号）。	P38～45
	六年生をふり返って	一年間の学びをふり返り、今後の学習に生かそうとすることで、主体的に社会の形成し、その発展に寄与する態度を養えるようにしました。（第3号）。	P114～116
	服を着たゾウ その日、ぼくが考えたこと 支度	物語や詩を読み、人の心などの美しいものや気高いものに触れ、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました（第1号）。	P46～54 P96～109 P112～113
	「本物の森」で未来を守る 国境なき大陸 南極	土地本来の森を生かした防潮堤を造ることを提唱する説明文や、南極を理想像として地球全体で環境や平和を守ることを提案する説明文を読むことで、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました（第4・5号）。	P9～23 P74～83
巻末	文章の種類 伝統芸能に親しもう 山へ行く牛 イランカラブテの心	文章の種類を知り書くことに生かしていくことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養えるようにしました。（第1号）。 伝統芸能に親しむことで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養えるようにしました（第5号）。 物語を読み、人の心などの美しいものや気高いものに触れ、豊かな情操と道徳心を培えるようにしました（第1号）。 アイヌ語を題材にした文章を読み、他民族を尊重し思いやる心を考えることで、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました（第5号）。	P122～123 P124～125 P126～139 P140～143

Ⅲ 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

教育基本法第5条第2項及び学校教育法第21条に則り、以下の工夫をしました。

● 伝統と文化を尊重し、郷土愛と異文化を理解する態度を養います。

- ・日本の伝統芸能である「狂言」を演じたり、日本人の生活にとけこんでいる中国の古典「漢詩」を読んだりすることで、日本の文化に親しむよう配慮しています。
- ・日本人が育んできた季節を感じる言葉を扱い、日本の文化や地域の文化を尊重する態度を養えるようにしています。

● 働くことの尊さや家族の役割に気付くよう配慮しています。

- ・人工知能の可能性や、人間しかできないこと、人工知能と人間が協力してできることなどを考え、将来の生き方や仕事について話し合う活動を通して、人間の価値を見直し、将来に向かって努力する心を育てます。
- ・「幸せ」をテーマにした物語を読み、自分自身と重ね合わせて考えることで、家族との関係やこれまでの生活経験をふり返られるようにしています。

● 自然を大切に作る心を育てます。

- ・減少傾向にある土地本来の森や地球温暖化をテーマにした読み物教材を掲載し、自然や環境保護への意識を持てるようにしています。

● インクルーシブ教育、ユニバーサルデザインに配慮しています。

- ・文字の大きさ、書体（書き文字に近いフォント）、囲みや罫線による地の文との区別、色使いなどのレイアウトを工夫し、判読しやすくしています。

● 読書習慣を身に付け、生涯にわたって本に親しむ態度を育てます。

- ・本を見つけるための手掛かりとなるよう図書紹介のページを設け、読書への意欲と興味を喚起するようにしています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
30 - 155	小学校	国語	国語	6
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
11 学図	国語 603	みんなと学ぶ	小学校 国語	六年 上
	国語 604	みんなと学ぶ	小学校 国語	六年 下

I 編修上特に意を用いた点や特色

○編修の基本方針

「深く考え、共感し、しなやかに生きる」

グローバル化が進展し先の読めない社会の中で、予測を超えた課題に向き合い、これからの未来をどう切りひらいていくか。

言葉と深く関わり、没頭しながら、目の前の課題を踏み越えることができた時、子どもたちは社会を生きるための確かな言葉の力を身につけることができます。

言葉の力は生きる力そのものです。みんなとともに一步一步、言葉の力を獲得し、自信と希望をもって新しい課題に柔軟に対応する子どもたち。そのような姿を思い描き、子どもたちの明るい未来へのスプリングボードとなる教科書をめざしました。

【めざす子ども像】

自ら学び、追求し、深く考え、自分の言葉で発信する姿。

互いの立場や考えを尊重し、対象を言葉で伝え合うことで自分の考えを確かめ、新たな価値の発見や考えの更新を実感する姿。

必要な情報を見極め、課題解決に向けて意思決定や行動選択のできる姿。



日本人としての感性や情緒を育むとともに、さまざまな文化や考え方の多様性を理解し、他者と協働していく姿。

【みんなと学ぶ 小学校 国語の特色】

何を学ぶか

どのように学ぶか

何ができるようになるか

つきたい力を明確にし、対象と主体的に関わり、言葉による見方や考え方を働かせることで、確かな言葉の使い手となる能力を育てます。

特色 ① 確かな言語能力を育成します。

特色 ② 見通しをもって取り組むことで、学びの自覚化を促します。

特色 ③ 学ぶ意欲を喚起し、豊かな情操を育みます。

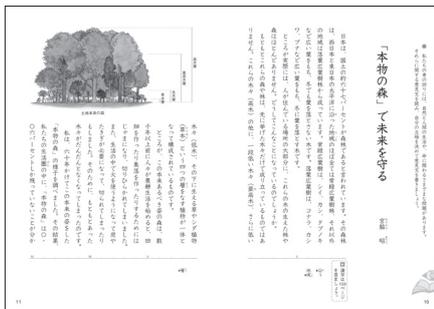
特色 ④ 対話の質を高め、多様な考えを受容する「共感力」を培います。

特色 1

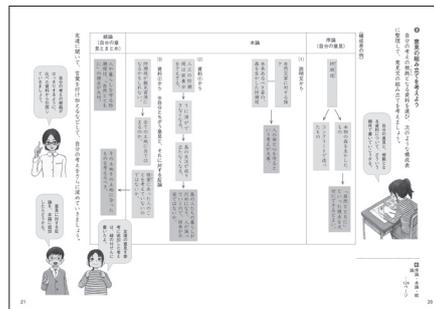
確かな言語能力を育成します。

言葉に着目し言葉で考える機会を設けることで、国語の基礎・基本を積み上げていきます。また、教材どうしを関連させることで系統性をもたせ、学習を繰り返しながら理解を深め、資質・能力の定着を図ります。

- 説明文を読み、筆者の意見に対する自分の考えを意見文にする「複合単元」を設定しています。読むことと書くことを相互に関連づけることで、実践的な読みの能力や効果的に書く能力を育て、深い学びの土台を築いていきます。



『『本物の森』で未来を守る』(下巻 P10・11)



(下巻 P20・21)

- 学習に必要な技能や、言葉による見方や考え方を働かせて言語活動を進めていくためのヒントをまとめています。〈読むこと〉では「学習のてびき」に、〈話すこと・聞くこと〉や〈書くこと〉では巻末資料にリンクさせ提示しています。これらが深い学びの“鍵”となります。



「誓約書」(上巻 P29)



「日本の魅力、再発見」(下巻 P93)



「国語のカギ」(下巻 P121)

特色 2

見通しをもって取り組むことで、学びの自覚化を促します。

学年の最初に、その学年でつけたい力を一覧で示し、1年間の学習内容を確認できるようにしています。また、学年末には、1年間の学習をふり返り、達成感を味わわせ今後の学びへの意欲づけができるようにしています。

- 上巻の冒頭での、両観音開きのダイナミックな紙面と上質なイラストが、国語学習の世界へ誘います。下巻の最後で自身の学びをふり返り、自分の思いや考えを書きます。



「六年生でつけた力」(上巻 P 7～10)



「六年生をふり返って」(下巻 P116)

特色 3

学ぶ意欲を喚起し、豊かな情操を育みます。

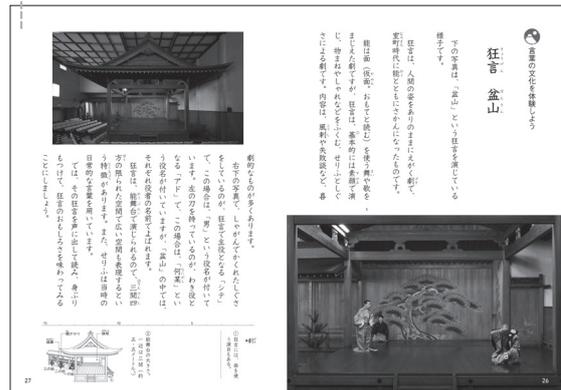
子どもたちが「やってみたい!」と色めき立つような、魅力的な言語活動を設定しています。また、言葉が醸し出す味わいを感覚的にとらえ、豊かに想像することで言語感覚を磨けるようにしています。

一つの作品をみんなで読み自由に語り合うことで、作品を深く読むことの楽しさに気づきます。人と関わりながら意欲的に本を読むことで読書の世界を広げ、読書習慣を身に付けます。



「絵を見て語り合おう」(上巻 P76・77)

狂言を演じたり音読したりすることを通して、言葉の響きやリズムを楽しみます。今も昔も変わらない人の姿に気づいたり、日本人に連続と受け継がれてきた伝統的な言語文化を味わったりするなかで、日本語の表現の豊かさに親しむことができます。



「狂言 盆山」(上巻 P26・27)

特色 4

対話の質を高め、多様な考えを受容する「共感力」を培います。

対話により、話す力と聞く力を相互に関係づけながら、多様な考えを共感的に受け止めることで、自らの思考の深化や変容を促すとともに、教室内のコミュニケーションを円滑にします。

〈話すこと・聞くこと〉の教材のみならず、〈書くこと〉や〈読むこと〉の教材でも、対話的な「学び合い」を通して、互いの理解を深められるようにしています。また、共有の場面は単元の最後だけでなく、学習活動において常に共有を意識することで、自分の思考過程をふり返り、自分の思いや考えを確かめられるようにしています。

物語教材では、読解のプロセスに応じて、適宜考えを共有し、読みを深めていきます。学び合いにより「なるほど!」と納得したり、「どうして?」と考えたりすることが真の理解につながります。



「その日、ぼくが考えたこと」(下巻 P108・109)

書く活動においては、さまざまな過程で話し合いの場を設定しています。友達の発言を肯定的に受け止め、自分の考えと比較することで新たな価値を創造したり考えを再構成したりしていきます。



「自分を見つめてみよう」(下巻 P72・73)

Ⅱ 対照表

【上巻】

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所	配当 時数	※
	1 知識及び技能	2 思考力、判断力、表現力等			
出発	(1)ケ	C (1)エ	p①～1	1	
プラス思考でアドバイス	(1)ア	A (1)オ	p14～15	2	
誓約書	(1)ケ, (2)イ	C (1)イ, エ, オ, (2)イ	p16～29	6	
言葉のきまり1 前後のつながりを示す言葉	(1)エ, カ		P30～33	3	
季節のたより(春)	(1)オ, (3)ア		P34～35	1	
言葉の泉1 漢字の成り立ち	(3)ウ		P36～38	2	
言葉をつないで文を作ろう1	(1)エ	B (1)オ	P39	1	
話し合ってみよう	(1)ア	A (1)オ	P40～41	2	(1)ア
AIで言葉と向き合う/AI(人工知能) と私たちの未来	(1)オ, カ	C (1)ア, ウ, オ, カ, (2)ア	P42～53	5	
さまざまな表現の工夫	(1)ク, ケ	B (1)ア, オ	P54～56	4	
漢字の広場	(1)エ		P57	1	
パネルディスカッションをしよう	(1)ア, オ	A (1)ア, ウ, エ, オ, (2)ウ	P58～65	8	
季節のたより(夏)	(1)オ, (3)ア		P66～67	1	
経験や知識をもとに導き出そう	(2)イ	C (1)オ, カ	P68～71	2	
電子メールで質問しよう	(1)ア, キ	B (1)イ, オ	P72～73	2	(1)ア
言葉をつないで文を作ろう2	(1)エ	B (1)オ	P74	1	
絵を見て語り合おう/フリードルとテレ ジンの小さな画家たち/読書の部屋	(1)カ, (3)オ	C (1)エ, オ, (2)イ	P75～93	4	
名づけられた葉/きのうより一回だけ多く	(1)ク, ケ	C (1)エ, カ, (2)イ	P94～97	2	
文章構成の効果を考える	(1)カ	B (1)イ	P98～101	4	
言葉のきまり2 文末の表現	(1)ウ, キ		P102～103	1	
きつねの窓	(1)カ, ケ	C (1)イ, エ, オ, (2)イ	P104～121	6	
漢字の広場2	(1)エ		P122	1	
言葉をつないで文を作ろう3	(1)エ	B (1)オ	P123	1	
言葉の泉2 言葉づかいのちがひ	(1)イ, キ		P124～126	2	

【下巻】

図書の構成・内容	学習指導要領の内容		該当箇所	配当 時数	※
	1 知識及び技能	2 思考力、判断力、表現力等			
土	(1)ク, ケ	C (1)エ	p①～1	1	
イメージを短い詩にしよう	(1)オ, ク	B (1)カ	p6～8	2	
「本物の森」で未来を守る	(1)オ, カ, (2)イ	B (1)ア, イ, ウ, エ, C (2)カ (1)ア, ウ, オ, (2)ア	p9～23	9	
季節のたより (秋)	(1)オ, (3)ア		P24～25	1	
狂言 盆山／漢詩	(1)カ, ケ, (3)ア, イ, ウ	C (1)エ	P26～35	4	(1)オ
漢字の広場 1	(1)エ		P36	1	
言葉をつないで文を作ろう 1	(1)エ	B (1)オ	P37	1	
「連詩」を発見する ／心と言葉でつながろう	(1)ア, オ, ク	B (1)ア, オ, カ	P38～45	6	
服を着たゾウ	(1)ケ	C (1)イ, エ, オ	P46～54	3	
言葉をつないで文を作ろう 2	(1)エ	B (1)オ	P55	1	
言葉の泉 1 熟語の構成	(1)オ, (2)イ		P56～57	1	
すいせんします、この委員会活動	(1)イ, カ	A (1)ア, イ, (2)ア	P58～62	8	
漢字の広場 2	(1)エ		P63	1	
本は心の道しるべ／読書の部屋	(3)オ		P64～67	1	
季節のたより (冬)	(1)オ, (3)ア		P68～69	1	
自分を見つめてみよう	(1)カ	B (1)ア, ウ, (2)ウ	P70～73	8	
国境なき大陸 南極	(1)カ, ケ, (2)ア	C (1)ア, ウ, オ, カ, (2)ウ	P74～83	5	
言葉のきまり 1 意味をそえる言葉	(1)エ, オ, カ		P84～85	1	
日本の魅力、再発見	(1)カ, (2)イ	A (1)ウ, エ, (2)ア B (1)ア, イ, エ, (2)ア	P86～93	12	
言葉の泉 2 言葉は変わる	(3)ウ		P94～95	1	
その日、ぼくが考えたこと	(1)カ, ケ	C (1)エ, オ, カ, (2)イ	P96～109	6	
言葉をつないで文を作ろう 3	(1)エ	B (1)オ	P110	1	
言葉で遊ぼう	(1)エ, オ		P111	1	(1)エ
支度	(1)ク	C (1)カ, (2)イ	P112～113	1	
六年生をふり返って	(1)ウ	B (1)ア	P114～116	2	

表内の記載は重点項目のみを示しています。

<備考>

- ・ 1 知識及び技能
 - (1)言葉の特徴や使い方に関する事項
 - (2)情報の扱い方に関する事項
 - (3)我が国の言語文化に関する事項
- ・ 2 思考力、判断力、表現力等
 - A 話すこと・聞くこと
 - B 書くこと
 - C 読むこと

※には「2 内容の取扱いについての配慮事項」に関するものを示しています。